

# 競技成績の異なる東北地方大学 女子バスケットボールチームの心理的特性

— MPI, TSMI について —

児玉 善廣\*, 本間 正行\*\*, 佐々木桂二\*\*\*

**Psychological characteristics of female basketball players through TSMI and MPI test**

**Yoshihiro Kodama, Masayuki Honma and Keiji Sasaki**

The objective of this study was to compare psychological characteristics of female basketball players belonging to three teams with different competitive abilities. Players from these three teams were given MPI and TSMI tests to investigate their psychological traits.

The result of this study were as follows.

- 1) According to MPI test alone, players from three teams did not show any significant differences in their psychological make-up.
- 2) TSMI test showed that three teams had soord average levels. While factor for competitive motivation showed stronger team scoring high and weaker team scoringlow.
- 3) Comparison of personality traits from MPI and TSMI tests resulted in team "T" with best record and team "H" with worst record scoring no negative points in 17 categories of the test. Team "S" with second best record scoring negative points in 4 categories.
- 4) Comparison of two tests regarding emotional stability showed strongest team "T" scoring negative points in 9 categories, team "H" with worst record scoring negative points in one categorie, and team "S" with second best record scoring negative points in none of the castegories.

**Key words** : characteristics, Basketball, MPI・TSMI test.

## 1. はじめに

スポーツ選手の競技力向上の一環として心理的適性を明らかにすることの必要性は、だれもが認めるところである。特に松田ら<sup>8)9)10)</sup>によってTSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory)が開発されてからは、この検査がパーソナリティ構造のおもに態度などの外的側面からのアプローチとして、気質などの内的側面からのアプローチ (MPI など) と併用され、数種目の

スポーツ選手について検討が行われてきた<sup>1)4)6)7)12)13)14)15)</sup>。

本研究で対象としているバスケットボール選手については、高校、大学、実業団の男女を対象に、吉沢ら<sup>16)</sup>がMPI, TSMIを併用して所属カテゴリー、競技成績、性差などの観点から検討し、男女とも外向的な者ほど、男子では競技レベルが高く、経験年数が長い者では外向的な者ほど、また男女とも神経症傾向の低い者ほど優れた適性を示す傾向が見られたことを報告し

\* 仙台大学, \*\* 弘前大学, \*\*\* 東北学院大学

ている。また堀本ら<sup>3)</sup>はポジション別比較から、高校・大学ではMPI, TSMIによる差は見られないが、実業団ではTSMIにおいて男女共にガードが14尺度中、11尺度；フォワードが3尺度に有意に高い適性を示したが、センターは全ての尺度が低い適性であると報告している。

ところで、バスケットボール選手の心理的適性が前記の研究の傾向であったとしても、実際個々のチームの選手たちは様々なパーソナリティの者が混在しており、大学チームの部員構成・能力等の相違から各チームの心理的特性は異なると思われる。そこで効果的な指導やゲームの遂行のためにはチームの心理的特性について把握しておく必要がある。特定のチームの心理的特性については、堀本ら<sup>2)</sup>が1985年世界女子ジュニア選手権大会中国代表チーム、1985年神戸ユニバーシアード大会日本代表女子チームを対象にTSMIを用いて比較し、競技成績の高い中国チームが日本チームより競技意欲も高いことを明らかにしている。また筆者ら<sup>5)</sup>は、競技成績の異なる東北地方大学男子チームについてMPI, TSMIを用いて比較したところ、MPIの向性、神経症傾向については競技成績との関係が見られなかったが、競技意欲については競技成績が高いチームほど高いことが指摘されている。

そこで本研究では、さらに東北地方大学女子チームを対象に、競技成績と心理的特性との間でどのような違いがあるのかをMPI, TSMIによって比較、検討した。

## 2. 研究方法

〈対 象〉

T大学女子バスケットボール部選手 14名  
(以下, T大)

S大学女子バスケットボール部選手 21名  
(以下, S大)

H大学女子バスケットボール部選手 14名  
(以下, H大)

〈競技経験年数の平均 (標準偏差)〉

T大……10.0 (2.2) 年

S大…… 9.4 (1.7) 年

H大…… 8.3 (2.8) 年

〈競技成績 平成7年度 (1995年)〉

T大……全日本学生選手権大会1回戦。東北学生選手権大会1位。東北大学総合体育大会1位。

S大……東北学生選手権大会ベスト8。東北大学総合体育大会ベスト8。

H大……東北学生選手権大会ベスト8。東北大学総合体育大会ベスト8。

(但しS大とH大はこの年同じ成績だが、直接の対戦結果ではS大がH大よりかなり上回っていた。)

〈調査時期〉

T大……平成7年11月27日。

S大……平成7年11月22日。

H大……平成7年11月18日。

〈調査内容〉

日本版MPI (Maudsley Personality Inventory)……Eysenck 11)によって作成され、生物学的基礎に立脚して、「外向性—内向性」,「神経症傾向」という独立した2次元について測定するテスト。

TSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory)……松田ら<sup>8)9)10)</sup>によって作成され、スポーツ競技に対して直接的な「やる気」や「意欲」などを17尺度で測定するテスト。

両テストとも強制速度法(1つの質問につき、ゆっくり2回読み上げた)によって実施し、回収した。

## 3. 結果と考察

(1) MPIについて

T大, S大, H大各チームのMPIの向性(E)と神経症傾向(N)の平均値と標準偏差を表1に示した。

向性の各大学の平均値を比較してみると、S

大が34.5点で最も高く、次にT大31.4点、H大26.7点の順であった。しかし3大学間の平均値に統計的有意差はなかった。神経症傾向の各大学の平均値を比較してみると、T大が24.9点で最も高く、次にS大が22.5点、H大18.1点の順であった。しかし3大学間の平均値に統計的有意差はなかった。従って向性、神経症傾向は3大学間の競技成績との関連がないということである(表1)。

なお一般女子大学生の向性平均値は26.3点であるが、これと比較するとH大はほぼ同値であるが、S大、T大の得点は高かった。また神経症傾向平均値24.4点と比較すると、T大はほぼ同値であるが、S大、H大はそれより低かった。つまりT大は外向性傾向で神経症傾向が平均的、S大は外向性傾向で神経症傾向が低く、H大は外向性傾向が平均的で神経症傾向が低い傾

向であった。

吉沢ら<sup>16)</sup>は、バスケットボール選手の心理的適性としては外向性が高く、神経症傾向が低いほど望ましいと報告しているが、この傾向であるのはS大だけであった。S大学は、心理的側面から見れば3チームのなかで最も可能性のあるチームと思われる。

(2) TSMIについて

T大、S大、H大各チームのTSMIの尺度得点の平均値と標準偏差を表1に、平均値を9段階得点で評価したプロフィールを図1に示した。

各チームの尺度得点の平均値を比較してみると、「勝利志向性」が1%水準で、「IAC(コーチへの不適応)」、「失敗不安」、「緊張性不安」が0.5%水準で統計的に有意差がみられた。そこでどのチーム間に有意差があるのかをライアン法

表1 T大、S大、H大のMPI, TSMIの各尺度の平均、標準偏差

TMRI (尺度名)	T大		S大		H大		分散分析 F
	X	SD	X	SD	X	SD	
1 目標への挑戦	22.3	5.7	23.3	3.3	22.9	4.8	0.21
2 技術向上意欲	22.1	5.8	23.9	2.6	23.9	4.7	0.81
3 困難の克服	23.2	5.6	23.6	3.0	24.4	4.7	0.25
4 練習意欲	19.1	5.6	19.0	3.0	19.6	5.9	0.07
5 情緒安定性	20.1	3.6	17.4	3.0	18.3	4.4	2.36
6 精神的強靱さ	21.0	4.6	18.5	4.0	20.1	4.6	1.47
7 闘志	25.4	4.1	24.9	4.1	25.4	4.3	0.08
8 競技価値観	21.4	6.3	22.1	4.3	23.7	4.5	0.83
9 計画性	19.1	3.6	20.6	2.4	20.1	4.8	0.77
10 努力への因果帰属	22.6	3.4	24.2	2.3	23.7	3.5	1.19
11 知的興味	22.9	4.8	24.1	4.0	24.9	5.6	0.60
12 勝利志向性	19.4	3.9	22.6	4.0	24.0	3.4	5.35**
13 コーチ受容	22.8	4.2	21.3	2.7	23.4	3.3	1.71
14 IAC	16.6	4.4	22.1	3.9	14.4	1.8	21.77***
15 失敗不安	16.9	4.6	21.9	4.9	16.6	4.9	6.68***
16 緊張性不安	17.2	3.9	21.7	4.0	18.0	4.7	5.94***
17 不節制	18.9	4.1	17.0	2.7	17.8	4.1	1.12
MPI (E)	31.4	11.0	34.5	7.3	26.7	12.6	2.50
〃 (N)	24.9	9.3	22.5	12.3	18.1	9.7	1.41

\*\*P<.01 \*\*\*P<.005

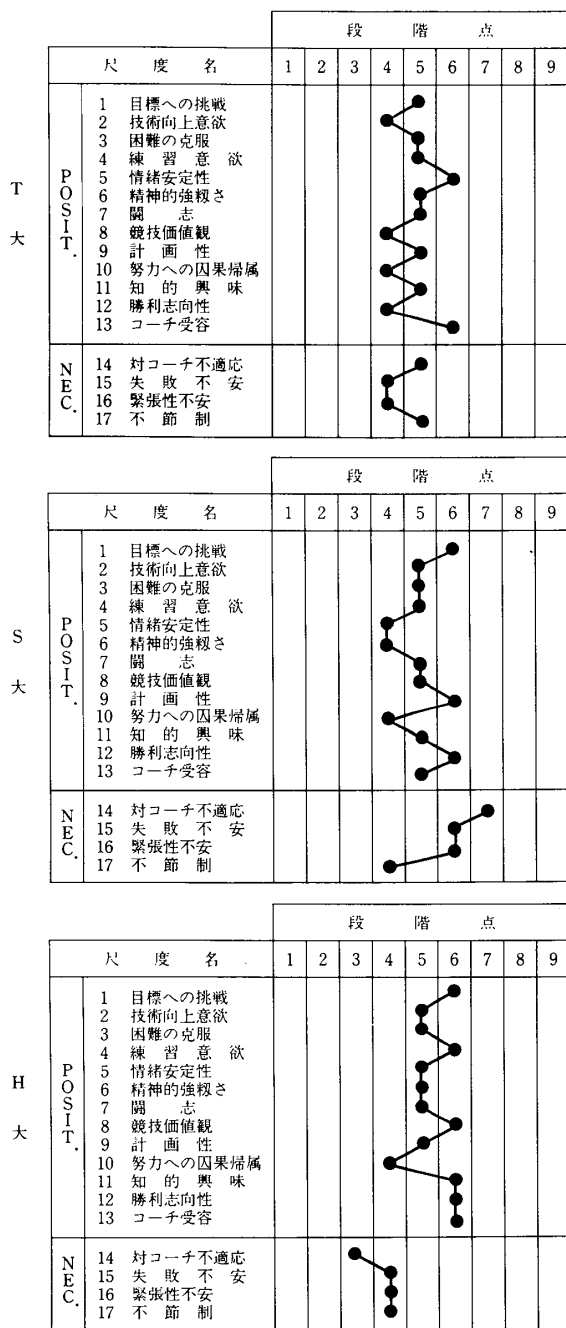


図1 T大, S大, H大女子バスケットボール部の TSMI プロフィール

によって比較したところ, 「勝利志向性」は H 大 > T 大 ( $t=3.27$ ), S 大 > T 大 ( $t=2.28$ ), 「IAC」は S 大 > H 大 ( $t=6.20$ ), S 大 > T 大 ( $t=4.43$ ), 「失敗不安」は S 大 > H 大 ( $t=2.95$ ), S 大 > T 大 ( $t=2.79$ ), 「緊張不安」は S 大 > T 大 ( $t=2.92$ ), S 大 > H 大 ( $t=2.40$ ) にそれぞれ 5%

水準で有意差がみられた。

T 大は S 大, H 大に比べて試合に勝ちたいという思いが低いようである。T 大は, 数年東北学生では常勝チームであり, 競技実績や経験身, 体的能力などが東北の他のチームより, 試合に勝つことは, 当然のことと知っているかもしれない。しかし, 全国大会においては, まだ思わしい成績があげられていないことなどを考えると, さらに勝利志向性を高めるための対策を講じるべきであろう。

S 大は「IAC」, 「失敗不安」, 「緊張性不安」が他の 2 大学より高かった。

「IAC」は「自分はコーチによく思われていない」とか「コーチに不満を持っている」などコーチと選手との人間関係の問題である。ゲーム運営を含めチームは選手とコーチの両輪で運営されていることより人間関係の改善をはかる必要がある。次に「失敗不安」は「試合に負けたり失敗をするのではないかという不安を持つ傾向」, 「緊張性不安」は「試合中の緊張する場面などで不安が高まる傾向」の尺度である。不安傾向はパーソナリティとの関連が深いものの, 「IAC」がやや高いことから, 「失敗するとコーチに怒られるのではないか」というようなコーチとの関係で, プレイの結果に対する不安を持っていることも考えられる。

つぎにプロフィールについては, T 大はポジティブな尺度 13 尺度中段階点 4 の尺度数が 4, 段階点 5 の尺度数が 7, 段階点 6 の尺度数が 2, ネガティブな尺度 4 尺度中段階点 4 の尺度数が 2, 段階点 5 の尺度数が 2 であった。S 大はポジティブな尺度 13 尺度中段階点 4 の尺度数が 3, 段階点 5 の尺度数が 7, 段階点 6 の尺度数が 3, ネガティブな尺度 4 尺度中段階点 4 の尺度数が 1, 段階点 6 の尺度数が 2, 段階点 7 の尺度数が 1 であった。H 大はポジティブな尺度 13 尺度中段階点 4 の尺度数が 1, 段階点 5 の尺度数が 6, 段階点 6 の尺度数が 6, ネガティブな尺度 4 尺度中段階点 3 の尺度数が 1, 段階点 4 の尺度数が 3 であった。3 チームとも全体的にみれば平

均的水準であった。しかし東北地方大学男子<sup>5)</sup>の場合は競技成績が高いチームのほうが比較的意欲が高い傾向であったが、女子の場合は競技成績が高いチームのほうが意欲が低い傾向がみられ男子とは様相が異なった。これは競技力の面から考えると、現状として東北上位チームは全国大会での勝利達成の可能性が女子より男子のほうが高く、東北下位チームは東北大会での勝利達成の可能性が男子より女子のほうが高いことが原因なのではないかと思われる。

(3) MPI と TSMI の関係について

T大, S大, H大のMPIの向性, 神経症傾向と, TSMIの各尺度との相関を表2に示した。向性とTSMIの各尺度との有意な相関は, S大では「情緒安定性」, 「精神的強靱さ」, 「計画性」に正の相関, 「緊張性不安」に負の相関がみられたが, T大, H大ではいずれの尺度にも有意な相関はみられなかった。吉沢ら<sup>16)</sup>は, 女子バスケットボール選手は社会人よりも大学生, 大学

生よりも高校生がTSMIのより多くの尺度で有意な相関があると報告しているが, S大は吉沢ら<sup>16)</sup>の報告のうち大学生のAベレージグループおよび高校生のハイレベル, Aベレージ両グループの結果とほぼ同様で, 外向性の者ほどすぐれた適性を示す傾向がみられた。しかしT大, H大は社会人と同様全尺度において有意な相関はなく, 向性が単純に競技意欲に反映していない。このことからS大の競技意欲は比較的生的な面を反映している向性に, T大, H大は後天的な諸要素, たとえば現在受けている, あるいはこれまで受けてきた指導者や選手個人の考え方などの影響によるものと思われる。各大学によって傾向が異なったのは, T大の場合, ほとんどの選手が競技レベルが高く, 推薦入学の学生であり, 考え方や能力差が少ないこと。またH大の場合は, 入部の決定に関してはほとんどの学生が自分の自由意志による場所が多い。そして, S大の場合はT大, H大2チー

表2 T大, S大, H大のMIPの相関とTSMIの各尺度

TMRI (尺度名)	T大		S大		H大	
	E	N	E	N	E	N
1 目標への挑戦	0.201	-0.463	0.257	-0.114	0.238	0.009
2 技術向上意欲	0.431	-0.488	0.189	-0.200	0.245	0.055
3 困難の克服	0.448	-0.505	0.413	-0.291	0.432	-0.325
4 練習意欲	0.490	-0.288	-0.017	0.146	0.057	0.135
5 情緒安定性	0.263	-0.614*	0.476*	-0.111	0.176	0.101
6 精神的強靱さ	0.419	-0.757***	0.444*	-0.325	0.462	-0.195
7 闘志	0.289	-0.543*	0.381	-0.266	0.206	0.295
8 競技価値観	0.527	-0.400	-0.138	-0.130	-0.244	0.497
9 計画性	0.336	-0.301	0.450*	0.060	0.171	0.296
10 努力への因果帰属	0.301	-0.645*	-0.186	0.082	-0.100	0.387
11 知的興味	0.492	-0.607*	-0.023	0.427	-0.135	0.093
12 勝利志向性	-0.186	0.524	-0.005	0.120	-0.153	0.297
13 コーチ受容	0.392	-0.576*	-0.244	0.295	-0.493	0.551*
14 IAC	-0.311	0.384	-0.012	-0.058	-0.022	-0.025
15 失敗不安	-0.164	0.769***	-0.306	0.349	-0.082	-0.140
16 緊張性不安	-0.058	0.568*	-0.438*	0.360	-0.231	-0.105
17 不節制	-0.235	0.667**	-0.329	0.362	-0.355	0.290

\*P<.05 \*\*P<.01 \*\*\*P<.005

ムのケースをどちらも合わせ持っているチームであり、3チームの入部状況がそれぞれ異なるからであろう。

次に神経症傾向と TSMI の各下位尺度との有意な相関は、T 大では「情緒安定性」、「精神的強靭さ」、「闘志」、「努力への因果帰属」、「知的興味」、「コーチ受容」に負の相関、「失敗不安」、「緊張性不安」、「不節制」に正の相関が、H 大では「コーチ受容」に正の相関がみられたが、S 大にはいずれの尺度にも有意な相関はみられなかった。吉沢ら<sup>16)</sup>の結果と比較すると、T 大は高校生ハイレベルにおいてポジティブな尺度で有意な負の相関があった6尺度のうち「情緒安定性」、「精神的強靭さ」、「コーチ受容」の3尺度、ネガティブな尺度で有意な正の相関があった「失敗不安」、「緊張性不安」の2尺度に同様な相関があった。H 大、S 大は H 大の「コーチ受容」に有意な相関があっただけで他の尺度には相関がなかったが、吉沢ら<sup>16)</sup>によれば有意な相関がまったく無いのは社会人ハイレベルであった。神経症傾向が高ければ情緒が不安定であったり、「失敗不安」、「緊張性不安」が高い傾向になることは予想される。したがって T 大の結果は当然の帰結と思われるが、S 大、H 大については神経症傾向のいかんに関わらず不安を抱く者、抱かない者がいると予想される。神経症傾向が高くても、精神のコントロールを行って不安を除去したり、あるいは、神経症傾向が低くても、技術的、体力的レベルが低いために不安を抱いたりする者がいるのであろう。

なお「コーチ受容」の尺度に T 大は有意な負の相関があり、神経症傾向の高い人ほどコーチの言動などをよく受け入れない傾向、S 大は相関なし、H 大は有意な正の相関で神経症傾向の人ほどコーチの言動などをよく受け入れる傾向と3大学それぞれ異なる結果であった。吉沢ら<sup>16)</sup>の報告では高校ハイレベルに有意な負の相関があったが他のレベルにはみられなかった。どのような結果が良い傾向であるのかの判断は別として、この神経症傾向とコーチ受容の

関係は、少なくとも選手に対するコーチの関わり方で左右されよう。このことは、前述の様に3チームがそれぞれに選手の異なった体質によって構成しているため、それぞれの特徴となって表れているものと思われる。

#### 4. ま と め

本研究では、東北地方の大学女子バスケットボールチームのうち競技成績の異なる3チームを対象に、各チームの心理的特性について MPI, TSMI, MPI と TSMI の関係の比較から検討した。その結果を要約すると以下のとおりである。

(1) MPI の向性、神経症傾向について3チーム間に有意な差はみられなかった。

(2) TSMI の全体的なプロフィールは3チームとも平均的水準にあったが、競技成績の高いチームのほうが低いチームより競技意欲の低い傾向がみられた。

(3) MPI の向性と TSMI の間で有意な相関が認められた下位尺度は、競技成績が最も高い T 大と最も低い H 大にはなかったが、中間の S 大では4尺度「情緒安定度」「精神的強靭さ」「計画性」「緊張性不安」にみられた。

(4) MPI の神経症傾向と TSMI の有意な相関が認められた下位尺度は、競技成績が最も高い T 大では9尺度「情緒安定性」「精神的強靭さ」「闘志」「努力への因果帰属」「知的興味」「コーチ受容」「失敗不安」「緊張性不安」「不節性」にみられたが、最も低い H 大には「コーチ受容」の1尺度だけ、中間の S 大にはみられなかった。

#### 参考文献

- 1) 遠藤俊郎, 朽堀申二, 豊田 博, 福原祐三, 都沢凡夫, 上田 実「バレーボール選手の心理的適性に関する研究 性格特性, 競技意欲, 競争不安に着目して」日本体育学会第36回大会号, p. 590, 1985.

競技成績の異なる東北地方大学女子バスケットボールチームの心理的特性

- 2) 堀本 宏, 岡沢祥訓, 吉沢洋二, 猪股公宏「中国ジュニア女子世界選手権大会代表チームと日本ユニバーシアード代表バスケットボール選手のTSMIの特徴」スポーツ心理学研究, 12-1, p. 58-60, 1985.
- 3) 堀本 宏, 吉沢洋二, 岡沢祥訓, 猪股公宏「ポジション別にみたバスケットボール選手の心理的適性に関する研究」スポーツ心理学研究, 14-1, p. 104-109, 1987.
- 4) 加藤 久, 上田雅夫「MPIによるサッカー選手のパーソナリティ—競技レベルとパーソナリティ・テストの得点との関連について—」日本体育学会第32回大会号, p. 636, 1981.
- 5) 児玉善廣, 本間正行, 松尾健治, 糸川 圭「競技成績の異なる東北地方大学男子バスケットボールチームの心理的特性について—TSMI, MPIを中心にして—」仙台大学紀要第24号, p. 97-103, 1993.
- 6) 久保玄次, 加賀秀夫「愛媛県代表国体出場選手における競技種目類型及び競技成績とTSMIの得点との関係」スポーツ心理学研究, 14-1, p. 100-103, 1987.
- 7) 久保玄次, 兵頭 寛, 加賀秀夫「TSMIによる愛媛県ジュニア選抜陸上競技選手の3ヶ年の追跡」スポーツ心理学研究, 11-1, p. 63-65, 1984.
- 8) 松田岩男, 猪股公宏, 落合 優, 加賀秀夫, 下山剛, 杉原 隆, 藤田 厚, 伊藤静夫「昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 No. IV スポーツ選手の心理的適性に関する研究—第1報, 第2報—」日本体育協会, 1980.
- 9) 松田岩男, 猪股公宏, 落合 優, 加賀秀夫, 下山剛, 杉原 隆, 藤田 厚, 伊藤静夫「昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 No. III スポーツ選手の心理的適性に関する研究—第3報—」日本体育協会, 1981.
- 10) 松田岩男, 猪股公宏, 落合 優, 加賀秀夫, 下山剛, 杉原 隆, 藤田 厚, 伊藤静夫「昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 No. VI スポーツ選手の心理的適性に関する研究—第4報—」日本体育協会, 1982.
- 11) MPI研究会編, 新性格検査法, 誠信書房, 1977.
- 12) 岡沢祥訓, 猪股公宏「トップ・レベルの卓球選手の心理的適性に関する研究」総合保険体育科学, 6-1, p. 81-89, 1983.
- 13) 山本光二郎, 竹村 昭, 岡沢祥訓「American Football選手の心理的適性(1)—TSMI, MPIに関して—」日本体育学会第39回大会号A, p. 153, 1988.
- 14) 吉沢洋二, 岡沢祥訓「女子フェンシング選手の心理的適性について—競技レベルからみたTSMI, MPI, 精神力, あがりの特徴について—」スポーツ心理学研究, 13-1, p. 63-65, 1986.
- 15) 吉沢洋二, 岡沢祥訓, 猪股公宏「ホッケーの女子トップ・プレーヤーの心理的適性について」総合保健体育科学, 6-1, p. 113-112, 1983.
- 16) 吉沢洋二, 堀本 宏, 岡沢祥訓, 猪股公宏「Dual Construction Personality Modelからみたバスケットボール選手の心理的適性に関する研究」スポーツ心理学研究, 14-1, p. 29-35, 1987.

(平成8年10月31日受付, 平成8年12月20日受理)